

# 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 年 月 日

事業所名 ブロッサムジュニア北島教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	法令を遵守したスペースを確保し支援にあたっているが、イベント等により利用者が多い日には、時間帯を分け活動を行っています。	
	2	職員の配置数は適切である	9	0	基準人員に加え、手厚い支援が必要な時間帯に補助員を配置し、安全性を高めている。	適切な人員を配置しているが、送迎の時間帯など一時的に人員が少なくなるため増員を検討します。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3		若手職員も発言しやすいよう、小グループでの事前ミーティングを取り入れ、意見を広く集約する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	年1回のアンケートに加え、連絡帳や面談での要望を即座にスタッフ間で共有し、支援内容に反映させている。	アンケートの回収率向上のため、デジタルフォームの導入を検討し、より多くの声を収集する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	8		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	2	eラーニングを活用し、専門知識を学ぶ時間を設けている。	外部研修への参加費用補助制度を充実させ、より専門性の高い資格取得を奨励する。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	児童の強みに焦点を当てたアセスメントを行い、保護者との合意形成を丁寧に行った上で計画を作成している。	計画作成時に、より具体的な目標(スモールステップ)を設定し、達成感を得やすくする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2		ツール結果の解釈について職員間で勉強会を開き、分析の精度を一定に保つ。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	担当者一人に任せず、保育士・指導員がそれぞれの専門視点から意見を出し合って作成している。	立案プロセスを可視化し、経験の浅い職員も企画段階から積極的に関与できる体制を作る。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0		児童の「やりたいこと」聴き取り、自由遊びの時間にも選択肢を増やす。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	1	長期休暇中にはお買い物体験など、普段できない体験型プログラムを実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		集団活動の中でも、役割分担を明確にすることで一人ひとりの存在感を高める工夫をする。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	1	毎日30分程度のミーティングを行い、その日の児童の体調や特記事項、役割分担を全職員で確認している。		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	日々の活動の記録をとり、情報を共有し、支援の質の向上に努めています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	定期的にモニタリングを行い、必要があればその都度内容を見直すよう心がけています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	0		各プログラムがどの領域に該当するかを確認し、偏りがいないか定期確認する。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	児童の日常を最も把握している担当スタッフが必ず出席し、具体的な支援状況を共有している。	会議での決定事項を速やかに全職員にフィードバックする仕組みを強化する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	5		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	6		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	併用の児童発達支援センターへの訪問や、関係機関の方との面談を行い連携を図っています。	地域自立支援協議会への参加頻度を高め、地域の他事業所との事例検討会などを通じて専門的なネットワークを強化する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	7		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	4	参加が可能な場合には参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	送迎時に保護者の方とお話しするように心がけていますが、時間がない場合にはHUG上でのやり取りを行っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	7		

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	契約の際に対面で説明を行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	保護者の方の状況に応じて可能な場合には話しをしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	8		現在行えていないが今後検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	4	現在会報は発行していませんが、日々の活動の記録に写真を載せ活動について報告しています。	
	35	個人情報に十分注意している	9	0	全職員と守秘義務契約を締結し、児童の写真使用については個別に同意書を得ている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	8		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	マニュアルを作成し研修を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	1	セルフチェックリストを記入し、不適切な関わり(不適切な言葉遣い等)がないか相互確認している。	具体的な事例検討の機会を設け、職員の感度を高める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	5		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	3	契約の際のアレルギーの情報を聴き取り、必要に応じ、おやつやお弁当を持参してもらうなどの対応をとっています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	3	「小さなヒヤリ」もその日のうちに記録し、翌朝の朝礼で全スタッフに注意喚起を行っている。	